

道徳通信

大田区立馬込第三小学校
道 徳 部
令和5年12月13日(水)
第 5 号

あっという間に12月になり、2学期の終わりが近づいてきました。2学期の通知表には、特別の教科 道徳（以下、「道徳科」と言います）での子供たちの学びの姿を記述しています。今回は、道徳科における記述の評価についてお伝えします。

道徳教育には、大きく2つの側面があります。一方の側面は、学校全体における道徳教育です。これは、道徳科以外で行われます。例えば、「先生や友達に会ったら挨拶をしましょう（礼儀）」「友達と助け合いましょう（友情）」「係や当番の仕事は、最後までしっかりと行いましょう（勤労）」などです。これらの道徳教育は、行動の変化が求められます。反省すべき行動があれば改善に努めます。このような指導を繰り返すことで、学校全体における道徳教育の充実を図ります。

もう一方の側面は、道徳科の学習です。道徳科の学習は、内面的資質を養うことを目的としています。つまり、行動の変化を求めるのではなく、心を耕すことを大切にしています。道徳科の授業では、教材の通して、道徳的価値（友情、勤労、善悪の判断など）について考えます。通知表に記述する内容は、道徳科の学習についてです。道徳科の授業の中で、どのような学びをしたのか、どのようなことを考えたのかななどを記述で表記します。

学校の道徳教育

登校から下校まで全ての教育活動で、すぐに行動につなげるために行います。

つまり、「鉄は熱いうちに打て」

行為、行動の指導

日々の生活指導、学校行事、突発的なトラブル、人権、情報モラル、食育、交通安全などを通して、行動の改善に努めます。



道徳科の授業

授業を通して、内面的資質を育てます。

子供たちが自ら、自分自身をじっくりと見つめるための授業です。

つまり、「急がば回れ」

道徳科の評価

授業での学びを見取って、子供一人一人の気付きや考えを記述します。



4年生の授業の様子

道徳科では、内容項目（友情、親切、個性の伸長など）の学習を行います。全学年に共通する内容項目がある一方で、発達の段階に応じて中学年から学習する内容項目に「相互理解、寛容」があります。今回は、4年生の相互理解、寛容の学習の様子を紹介します。

内容項目：相互理解、寛容
教材名：話し合いのできごと

あらすじ

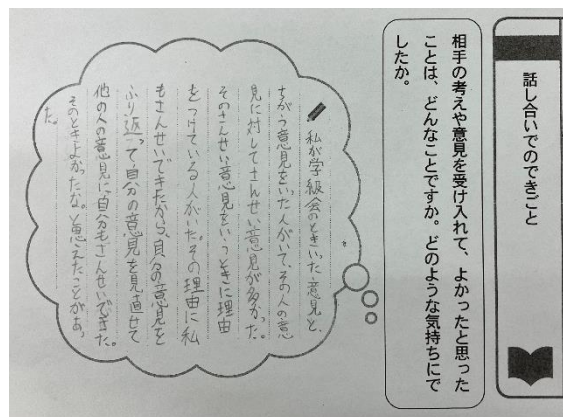
ひろしたちは、展覧会で展示する共同作品について学級で話合っていました。ひろしは、看板がいいと意見を出しました。友達のなつきは、窓に飾るステンドグラスがいいと意見を出しました。学級の全員で作るには、看板は人数が多すぎることに、窓に飾るステンドグラスであれば、学級の全員で作れるだろうと、なつきの考えに賛成が続きました。それでも、ひろしは看板を作ることを諦められません。すると、担任の先生が、「自分の意見を堂々と発表することも大切です。でも、時には相手の意見にも耳をかたむけることも大切です。」と話し始めました。

ひろしは以前、学級レクの内容を決めるときに、なつきがやりたい遊びを譲ってくれたことを思い出しました。少し考えた後に「みんな、ステンドグラスでがんばろう」とひろしは、伝えました。



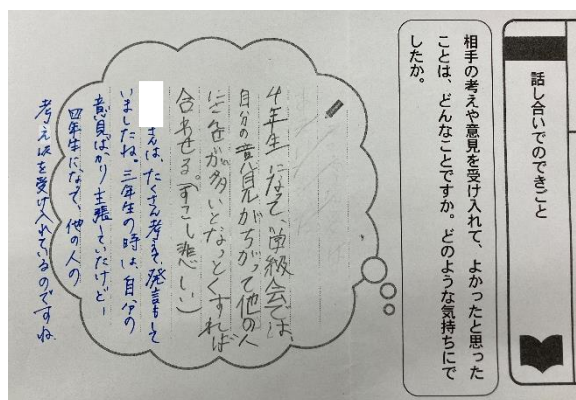
授業の前半では、教材の登場人物の気持ちを考えました。「どうしても、看板を作りたい。どうして、みんな分かってくれないんだ」「この前、なつきがゆずってくれたから、今度は、自分がゆずった方がいいのかな」「クラスの全員でできることを考えたら、ステンドグラスもいいかもしれない」など、看板を作るか、ステンドグラスを作るかで揺れ動くひろしの心の中を考えました。

授業の後半では、自分自身の生活を振り返りました。ワークシートを使い、自分の思いと向き合う時間を設けました。ワークシートの内容を紹介します。



私が、学級会のときに言った意見とちがう意見を言った人がいて、その意見に対してさんせい意見が多かった。そのさんせい意見をいうときに理由をつけている人がいた。その理由に私もさんせいできたから、自分の意見をふり返って、自分の意見を見直してほかの意見に自分もさんせいできた。そのときよかったなと思えたことがあった。

このワークシートには、違った意見を受け入れた経験が書かれています。相手の理由に納得できたから、自分の意見を見直すことができた経験を振り返っています。



4年生になって、学級会では、自分の意見と違って、ほかの人にさんせいが多いとなつくとすれば合わせる（少し悲しい）

このワークシートには、4年生になってから、ほかの人の考えに賛成することが多くなったと書かれています。この子に詳しく聞いてみました。いつまでも自分の考えだけを言っていたらよくないし、相手の考えがいいなと思ったら賛成しますと、答えていました。一方で、括弧の中に書いてある、「少し悲しい」という気持ちは、本音なのでしょう。この子らしさが表れていると感じました。

道徳科は、授業を重ねることを通して、子供たちの心を耕すことを大切にしています。2学期の通知表には、お子さんの学びの姿が書かれています。ぜひ、御覧ください。